

# ！必ずお読みください！

この説明書は大切に保管し、時々読み返してください。

## 直火、IH調理器による加熱使用できます。

必ず加熱器具の使用上の注意をよく読んでから加熱してください。

### キャップ必ず外して加熱してください

- 加熱して使用する場合は、必ずキャップをはずしてください。
- お湯の量は噴きこぼれない程度(7分目)で加熱し、使用前に口元までお湯を継ぎ足し、満水にしてご使用ください。
- 当製品は内部の圧力が一定値を超えると圧力を逃がす機能を装備してはいますが、大事故を軽減するための補助機能です。

### 誤ってキャップをしたまま加熱した場合

- 内部の圧力が上がり、破裂することがあり大事故につながります。
- 中の圧力が上がっていますので、熱湯、蒸気が噴き出し、やけどにつながります。直ちに火力を切ってください。その場合、湯たんぽが破裂する恐れがありますので、十分に注意してください。開栓は必ず、冷ましてから緩めてください。
- 誤ってキャップをしたまま加熱したものは、そのまま使用しないでください。冷ましてから湯たんぽにお湯漏れがないことを確認してください。
- 湯たんぽに変形がみられる場合はコンロ、ヒーター、ストーブなどで直接加熱を行わないでください。

### 湯たんぽ本体は金属製です

通常のご使用方法でも錆により穴が開く場合があります。ご使用前には必ず穴が開いていないか確認してください。錆の発生や進行は非常に複雑で、ご使用の頻度、保管状況、水質など様々な原因により錆が発生するまでの期間は異なり、早期に穴が開く場合があります。



### ご使用前に

#### ①水道水を使用のこと

- 水道水を必ず使用してください。他の水の場合、中に含まれている物質により、湯たんぽの内面が変質し、錆を早め穴があく原因になります。
- 水道水についても、水質の違いにより、以前と比べて湯たんぽの内面の変質を早めることがあります。

#### ②パッキンの点検

- 使用前にパッキンの正常装備を確認。ひび割れ、破損等の有無を点検し異常がある場合は交換してください。交換目安1年に1回。

#### ③臭いがする

- 湯たんぽの製造工程上、内部に油が付着している場合があります。臭いが出る事があります。その場合、ぬるめのお湯で数回洗ってください。

#### ④支柱はすれの音(本体内部でガラガラと音がする)

- 湯たんぽの中には、凹みを防止するための支柱を入れております。湯たんぽの天・底面の溝で挟んで動かない様になっていますが万一支柱が倒れると大きなガラガラ音がします。支柱が倒れると強度不足で凹み・変形による湯漏れの恐れがある為、ご利用を中止ください。

- 支柱が倒れる理由は ①湯たんぽの落下等の衝撃により倒れる。

- ②お湯の量が満水で無い場合に湯たんぽ内部の空気層は熱膨張し、湯たんぽ内部を膨らませ支柱が倒れる。

### ご使用時に

#### ①注湯時

- 注湯時は湯こぼれによるやけどに注意してください。お湯がこぼれても安全な場所(キッチンのシンクなど)で行ってください。

#### ②お湯は口元まで満水に

- お湯が少ないと、湯たんぽ内部の空気層が多くなり凹みや、キャップが開けにくい原因になります。

- 凹んだ湯たんぽはご使用にならないでください。お湯漏れが起こり危険です。

#### ③直接素手で触らない、熱湯に注意

- 熱湯を入れるので、素手で触ると火傷をします。ミトン、重手等を使用してください。

#### ④キャップは確実に

- キャップは確実に締めて、お湯が漏れないことを確認してください。

- 穴あきなどによる、お湯漏れがないことを確認してください。

#### ⑤布袋に入れる

- 湯たんぽは破れ等のない布製の袋に入れてご使用ください。市販の湯たんぽ袋については、その説明書をよくお読みの上ご使用ください。熱すぎる場合は、さらに他の布で包んで調整してください。

- 湯たんぽ本体が出ないように袋の口をしっかり締めてください。

#### ⑥キャップは上向き

- キャップは上向きでご使用ください。下向きの場合何らかの衝撃でキャップが緩んでお湯漏れが起こり危険です。

#### ⑦衝撃注意

- 湯たんぽの上に乗ったり、重い物を載せたり、強い衝撃を与えないでください。

#### ⑧低温やけどに注意

- 湯たんぽに長時間ふれていたりすると低温やけどを起こします。詳しくは、裏面の“低温やけどに注意”をよくお読みいただき、正しいご使用方法で安全にご使用してください。

### ご使用後

#### ①開栓が固い

- キャップが開けにくい時は、キャップ部分を熱湯につけて、再度開けてください。その際、棒等によるテコの原理を用いた開栓はキャップの持ち手破損となる為厳禁です。

#### ②お湯の他の目的への再利用不可

- 湯たんぽの中は、経年劣化により錆びが発生しています。中のお湯(お水)は服用及び使用はおやめください。

### 保管

#### ①天日干しによる湯たんぽ内部の水気完全除去

- 湯たんぽの収納時はしっかりと水を切り、日当たりのよい場所です湯たんぽ内部を完全乾燥させてから収納してください。

- 湯たんぽ内部に水気が残っていると錆の発生を早め、穴あきが発生し易くなり、湯たんぽ寿命を縮めます。

#### ②キャップはゆるく

- キャップは、中に空気が入らない程度にゆるく締めてください。強く締めると次回の使用時に外れにくいことがあります。

#### ③湿気のない所で

- 湿気のないところで保管してください。

- 保管中も錆は進行しています。次回使用する前には、必ず穴あきがないか確認してから、ご使用ください。

※弊社の湯たんぽは口金を外す事で直火加熱する事ができるため、冷めたお湯も再加熱、再利用する事ができますが、直火にかけると材質の劣化を早めてしまいます。

劣化が気になる方は、やかん等の別容器で沸かしたお湯を入れて使用される事をお勧めします。

※説明書をよくお読みの上お使いください。万一誤った使用による事故等が発生した時は責任は負えません。

※湯たんぽを直接火にかけると劣化を早めることとなるのでご注意ください。

